

福島国際研究教育機構の動向

～未来を拓く科学技術力・産業競争力の
拠点を目指して～



F-REI

福島国際研究教育機構

1月にロゴマークが
できました！

福島国際研究教育機構

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

令和6年 2月21日

福島国際研究教育機構関連事業 (復興庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省及び環境省)

令和6年度予算案 **155億円**
(令和5年度予算額 146億円)

東日本大震災復興特別会計 154億円
一般会計 1億円

事業概要・目的

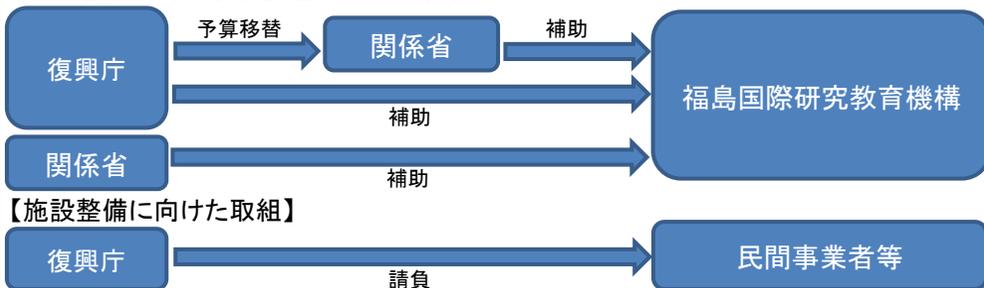
- **福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望**となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力強化を牽引する、**世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」**となることを目指す「**福島国際研究教育機構**」を令和5年4月に設立した。
- 機構では、中期目標及び中期計画に基づき、「**基盤作りと存在感の提示**」に重点を置き、機構の施設が整備される前にもできる限り早期に成果が得られるよう、研究開発等に取り組む。併せて、機構の施設整備に向けた取組を着実に実施する。
- このため、令和6年度において、**機構における運営管理、研究開発事業等の実施に必要な予算及び施設整備に向けた取組の実施に必要な予算**を計上する。

期待される効果

- 福島国際研究教育機構の業務を円滑かつ着実に実施することで、**福島や東北の復興及び我が国の科学技術力・産業競争力の強化に貢献**する。

資金の流れ

【法人運営等、研究開発・産業化・人材育成】



事業イメージ・具体例

- <>内は令和5年度予算額
- (1) **法人運営等** **20億円** <17億円>
 - ・ 機構の運営管理
 - ・ 専門人材の配置による研究開発等の支援体制の充実
 - ・ 研究開発シーズの実現可能性を調査するFS調査の実施
 - ・ 新産業創出等研究開発協議会等の開催による司令塔機能発揮
 - ・ 機構の認知度向上に向けた取組 等
 - (2) **研究開発事業等(研究開発・産業化・人材育成)** **99億円** <126億円>
 - ・ 5分野の研究開発の推進
 - ・ 研究開発の成果の産業化に向けた検討
 - ・ 研究者による出前授業等の実施 等
 - (3) **施設整備に向けた取組** **36億円** <3億円>
 - ・ 施設等の設計
 - ・ 用地取得事務、敷地造成に向けた準備工事 等



研究分野

【①ロボット】

複合災害を経験した福島で、廃炉や災害現場等の過酷環境で機能を発揮するロボット・ドローンの研究開発を行う。

【②農林水産業】

震災により大規模な休耕地や山林を有する地域特性を考慮し、新しい技術シーズの活用など、従来にはない次世代農林水産業に挑戦する。

【③エネルギー】

既存の水素関連設備等を活用し、カーボンニュートラルを地域で実現する。併せて先駆的なスマートコミュニティの実現に寄与する。

【④放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用】

福島の複合災害からの創造的復興の研究基盤として、放射線科学(核物理学、放射化学、核医学など)を据え、放射線やRIの利活用の検討を行う。

【⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信】

福島の複合災害から得られる様々なデータを集積し、知見を伝承することで、来るべき今後の災害への対策に資するとともに、まちづくりに貢献する。

福島国際研究教育機構 研究費 令和6年度予算案 99億円（令和5年度予算額 126億円）

- 福島国際研究教育機構（F-REI）は、**福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指す。**
- F-REIにおいて、中期目標、中期計画等を踏まえながら、**日本や世界の抱える課題、地域の現状等を勘案し、福島の優位性を発揮できる以下の5分野を基本とした研究開発を実施する。**

各分野の主な事業

注：（ ）は令和5年度予算額

【①ロボット】24.0億円（39.7億円）

複合災害を経験した福島で、廃炉や災害現場等の過酷環境で機能を発揮するロボット・ドローンの研究開発を行う。

（令和6年度の研究内容）

- 困難環境下でも機能発揮する作業ロボット・ドローンの研究
- 福島でのロボット競技大会等を通じた、性能評価手法の研究
- 長時間飛行・高ペイロードを実現し、カーボンニュートラルを達成するドローンの研究
- 防災・災害のためのドローンのセンサ技術の研究
- 廃炉を想定した遠隔操作等の要素技術の研究



困難環境の作業ロボット・ドローン（イメージ）

【②農林水産業】19.2億円※（14.0億円）

※予算集約5.8億円（6.7億円）含む

震災により大規模な休耕地や山林を有する地域特性を考慮し、新しい技術シーズの活用など、従来にはない次世代農林水産業に挑戦する。

（令和6年度の研究内容）

- 土地利用型農業における超省力生産技術の技術開発・実証
- 輸出拡大に貢献する果樹生産技術の開発・実証
- 施設園芸向け地域内エネルギー循環システムの構築
- 立木伐採、下刈り作業等林業の自動化・省力化技術の開発・実証
- 農林水産分野の先端技術展開事業＜予算集約＞



遠隔監視システムの開発（超省力生産技術開発）

【③エネルギー】31.6億円※（29.6億円）

※予算集約7.5億円（7.5億円）含む

既存の水素関連設備等を活用し、カーボンニュートラルを地域で実現する。併せて先駆的なスマートコミュニティの実現に寄与する。

（令和6年度の研究内容）

- ネガティブエミッション（BECCS/ブルーカーボン等）のコア技術の研究開発・実証
- 多収性植物からのバイオエタノール生産等のラポレベルでの実施、CO₂及び水素を利用した化学品製造工程設計
- 電力・水素エネルギー連携システムの設計、先端的な水素材料開発手法の設計
- 被災地企業等再生可能エネルギー技術シーズ開発・事業化支援事業＜予算集約＞



バイオ統合型グリーンケミカル技術（イメージ）

【④放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用】16.1億円（33.7億円）

福島の複合災害からの創造的復興の研究基盤として、放射線科学（核物理学、放射化学、核医学など）を据え、放射線やRIの利活用の検討を行う。

（令和6年度の研究内容）

- アルファ線放出核種等を用いた新たなRI医薬品の開発に向けた基礎研究及び非臨床試験等の実施
- 農作物におけるRIイメージング技術の開発
- 超大型X線CT装置開発にかかる要素技術の研究開発の推進



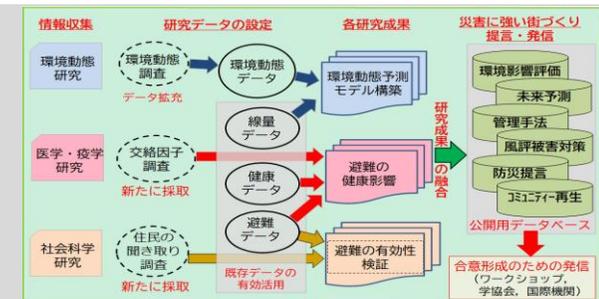
RIを利用した植物イメージング

【⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信】8.2億円（9.0億円）

福島の複合災害から得られる様々なデータを集積し、知見を伝承することで、来るべき今後の災害への対策に資するとともに、まちづくりに貢献する。

（令和6年度の研究内容）

- フィールド調査及び室内実験により、放射性物質の生態系内での循環及び自然資源（山菜類・淡水魚など）への移行挙動を解明
- 放射性物質の環境中での挙動を再現・予測する数値モデルを精緻化
- 被災者・コミュニティ・被災地域等の再生・創生研究、人材交流・地域活動をリードする人材の育成、それらの実装化に向けたネットワークや様々な研究者等が関わるハブ機能の構築
- 「福島の経験」から得たデータや知見を集積し、医学的、自然科学的、社会科学視点を併用し、その検証結果を取りまとめ、原子力災害への備えを提言



原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

第一分野(ロボット)

フィールドロボット等の市場化・産業化に向けた性能評価手法の標準化事業

実施体制 日刊工業新聞社

実施予定期間 令和7年度まで(ただし実施期間中の各種評価等により変更があり得る)

アクティブ聴覚を備えた複数ロボット・ドローン協調による要救助者探索技術の構築

実施体制 ドローン聴覚コンソーシアム(東京工業大学(代表機関)、熊本大学、産業技術総合研究所)

実施予定期間 令和6年10月頃まで

ロボットスマートプログラミング環境を用いたロボット開発環境と人材育成に向けた研究

実施体制 会津大学

実施予定期間 令和11年度まで

DXを加速させる革新的森林内飛行と3次元解析技術の確立

実施体制 DXを加速させる革新的森林内飛行と3次元解析技術の確立コンソーシアム(千葉大学(代表機関)、日本分析センター)

実施予定期間 令和5年度末まで

第二分野(農林水産業)

施設園芸等における再生可能エネルギーを活用した循環システムの構築

実施体制 HCU施設園芸コンソーシアム(産業技術総合研究所(代表機関)、農業・食品産業技術総合研究機構、国際農林水産業研究センター、東京大学、株式会社水循環エンジニアリング、株式会社武田鉄工所)

実施予定期間 令和11年度まで(ただし実施期間中の各種評価等により変更があり得る)

福島浜通り地域等の農林水産業の未来デザイン

実施体制 福島浜通り地域等の農林水産業の未来デザインコンソーシアム(福島大学(代表機関)、PwCコンサルティング合同会社)

実施予定期間 令和7年度まで(ただし実施期間中の各種評価等により変更があり得る)

土壌低分子有機物の植物栄養学的影響の解明

実施体制 土壌低分子有機物の植物栄養学的影響の解明コンソーシアム(福島大学(代表機関)、理化学研究所、京都大学、東京大学、北海道大学、筑波大学)

実施予定期間 令和11年度まで(ただし実施期間中の各種評価等により変更があり得る)

第三分野(エネルギー)

バイオエコノミーに対応した海藻類の大量養殖コア技術の研究開発と福島県沿岸における生産拠点形成の実証研究

実施体制 海藻類の大量養殖コア技術研究開発コンソーシアム(理研食品株式会社(代表機関)、理化学研究所、長崎大学)

実施予定期間 令和9年度まで(ただし実施期間中の各種評価等により変更があり得る)

第四分野(放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用)

超大型X線CT装置等を活用した産業のデジタル化技術の開発等に関する調査研究事業

実施体制 サイバー・フィジカル・エンジニアリング技術研究組合

実施予定期間 令和5年度末まで

第五分野(原子力災害に関するデータや知見の集積・発信)

環境中の放射性物質の動態への人間活動の影響・移行抑制対策の効果の評価手法開発

実施体制 日本原子力研究開発機構

実施予定期間 令和6年度まで(ただし実施期間中の各種評価等により変更があり得る)

F-REI 令和5年度の研究公募の状況

令和6年2月21日時点

1. ロボット分野	契約済	契約協議中
困難環境下でのロボット・ドローン活用促進に向けた研究開発事業		
①災害現場など困難環境での活用が見込まれる強靱なロボット・ドローン技術の研究開発		・東北大
②多数のロボット・ドローンによる協調作業を実現する技術の研究開発	・会津大 ・東工大（熊本大学、産総研）	
③湖沼、森林内などでの調査に対応するロボット・ドローンの研究開発	・千葉大（日本分析センター）	・福島大
フィールドロボット等の市場化・産業化に向けた性能評価手法の標準化事業	・日刊工業新聞社	
防災・災害のためのドローンのセンサ技術研究開発		・大阪工業大 ・信州大
廃炉向け遠隔技術高度化及び宇宙分野への応用事業		・広島大 ・北海道大
2. 農林水産業分野	契約済	契約協議中
福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進		
①土地利用型農業における超省力生産技術の技術開発・実証		・農研機構
②輸出対応型果樹生産技術の開発・実証		・農研機構 ・産総研(2件)
③先端技術を活用した鳥獣被害対策システムの構築・実証		・農研機構 ・東京大
④施設園芸におけるエネルギー循環利用技術体系の構築と実証	・産総研（農研機構、国際農林水産業研究センター、東京大学、株式会社水循環エンジニアリング、株式会社武田鉄工所）	・福島大
⑤化学肥料・化学農薬に頼らない耕畜連携に資する技術の開発・実証		・東北大
⑥未利用農林水産資源を活用した新素材の開発		・東北大
⑦福島浜通り地域等の農林水産業復興の将来方向性に関する研究	・福島大(PwCコンサルティング合同株式会社)	
⑧福島浜通り地域等の農林水産業復興に資する研究事業（提案公募型募集）	・福島大（理研、京都大、東京大、北海道大、筑波大）	・東北大 ・農研機構 ・北海道大 ・住友林業(株)

F-REI 令和5年度の研究公募の状況

令和6年2月21日時点

3. エネルギー分野	契約済	契約協議中
ネガティブエミッションのコア技術の研究開発・実証（BECCS、ブルーカーボン等）		
①植物のCO2固定及びネガティブエミッションへの利用に関する研究開発と実証		<ul style="list-style-type: none"> ・三重大 ・東京都立大 ・岡山大 ・福島大
②藻類のCO2固定及びネガティブエミッションへの利用に関する研究開発と実証	<ul style="list-style-type: none"> ・理研食品(株)（理研、長崎大学） 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重大 ・東北大 ・日本製鉄(株)
バイオ統合型グリーンケミカル技術の研究開発		<ul style="list-style-type: none"> ・東京大
水素エネルギーネットワークの構築		<ul style="list-style-type: none"> ・電中研 ・東京大
4-1. 放射線科学・創薬医療分野	契約済	契約協議中
農作物の生産性向上や持続可能な作物生産に資するRIイメージング技術の開発		<ul style="list-style-type: none"> ・量研機構
加速器を活用したRIの安定的かつ効率的な製造技術の開発		<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大 ・福島県立医科大 ・理研
4-2. 放射線の産業利用分野	契約済	契約協議中
超大型X線CT装置を活用したサイバー・フィジカル・エンジニアリング（CPE）技術に関する研究開	<ul style="list-style-type: none"> ・CPE技術研究組合 	
5. 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野	契約済	契約協議中
生態系の長期環境トレーシング研究	<ul style="list-style-type: none"> ・JAEA 	
原子力災害からの復興に向けた課題の解決に資する施策立案研究		<ul style="list-style-type: none"> ・長崎大 ・福島学院大 ・東京大（2件） ・福島県立医大 ・福島大
福島浜通り地域におけるまちづくり研究及びラーニング・コミュニティハブ整備事業		
①福島浜通り地域におけるまちづくり研究		<ul style="list-style-type: none"> ・東北大 ・東京大 ・福島高専
②福島浜通り地域におけるラーニング・コミュニティハブの整備		<ul style="list-style-type: none"> ・東京大学 ・宇都宮大学

令和5年度F-REI トップセミナー

福島の創造的復興と発展を中長期的に支える地域の未来を担う若者世代等を対象とした人材育成の取組の一環として、福島県内の大学、高等専門学校、高等学校の学生・生徒を対象に、最先端の科学技術の魅力と可能性等に関し、F-REIトップ陣によるセミナーを行うもの。

トップセミナーの概要

- 開催時期：令和5年5月～12月
- 講師：山崎光悦理事長ほかF-REIの役員など
- 実施内容：
以下に関する講義を実施
 - 最先端の科学技術の魅力と可能性
 - 学ぶことの重要性と未来をどう築くか
 - F-REIの役割と将来像 等



実施対象

- 実施対象：
福島県内の大学、高専、浜通り地域等の高等学校

実施スケジュール

5月17日	福島大学
5月30日	会津大学
6月13日	相馬高校
6月30日	会津学鳳中学校・高校
7月 4日	会津高校
7月13日	小高産業技術高校
8月31日	安積高校
9月12日	ふたば未来学園高校
9月25・26日	福島工業高等専門学校
10月 4日	福島県立医科大学 福島高校
11月 7日	東日本国際大学
11月24日	福島大学
12月 1日	磐城高校
12月 7日	原町高校

体験学習会の実例

10月15日（日）に福島浜通り地域の子供たちに、科学を身近に感じていただこうと、子供向けの科学教室を開催している網倉優子先生（東京）をお招きし、一緒にペットボトルロケットを自作して、打ち上げを行った。

参加者の声（アンケート結果より）

- 子どもと一緒に、また無料で参加できるということで楽しい経験になった。F-REIの発展につながるイベントがあれば、また参加してみたい。
- 理科、科学に興味を持ち今後の職業の選択に役立ててもらえたらと思っています。
- 子供と親と一緒に参加できるイベントをもっと開催してほしい。
- F-REIの名前は知っていたが、どのようなことをしているのかわからなかった。今回のイベントで少し知ることができた。子供が楽しんでいたので、またこういった機会があれば参加したい。



F-REI特別企画

福島国際研究教育機構(F-REI)とは、令和5年4月、浪江町に開所した研究教育機関です。ロボットなど全5分野における先進的な研究開発を通じて、創造的な復興の実現を目指します。

親子わくわく科学実験教室

～ペットボトルロケットをつくってとばそう～

日時 10月15日(日) 9:30～12:30

場所 ふれあい交流センター
(浪江町大字権現堂字矢沢町40-1)

対象 小学生と保護者
(1組あたり子ども最大2名、保護者最大2名)

持ち物 子ども1人あたり、空の1.5L炭酸飲料ペットボトル1本
※くびれがなく寸胴のもの (c.c.レモンや三ツ矢サイダー等)

定員 10組 (申し込み多数の場合は抽選)

参加費 無料

講師 ゆうこ博士 (博士 生命科学)
(千葉工業大学惑星探査研究センター 非常勤研究員)



自分で作ったロケットを飛ばしてみよう!

【申し込み方法】

QRコードからお申込みください
抽選結果は後日メールにてご連絡いたします
申し込み締め切り：10月4日(水)まで



【お問合せ】 福島国際研究教育機構(F-REI) 経営企画課
電話番号：0240-41-9965、メールアドレス：f-rei_keikika@f-rei.go.jp
イベントの様子を撮影させていただき、webサイト等に使用させていただきます。
また、当日は取材が入る可能性があります。あらかじめご了承ください。

F-REI 産学官ネットワーク・セミナー

産学官ネットワークセミナーは、東北の復興を見据え、東北の企業等を巻き込んだ産学官の連携体制構築の機会とするため、F-REIとの連携を含めた産学官連携や産業化について、トークセッション等を実施するもの。

第2回 F-REI 産学官ネットワークセミナーの概要

- 主催：F-REI・東北経済連合会
- 日時：令和5年10月12日（木）13:30～16:00
- 会場：TKPガーデンシティ仙台ホール
- 参加者：民間企業、団体、大学、地元自治体等より、76社等156名
(うち、延べ23社等43名はオンライン参加)
- 実施内容：

・第一部 講演

産学官連携・産業化をテーマとして若生氏、海老原氏、小池氏を講師としてお招きし、沿革と現在の取り組みについて、御講演いただいた。

- ①若生 裕俊 富谷市長
『「住みたくなるまち日本一」を目指して
～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～』
- ②海老原 城一 AiCTコンソーシアム代表理事
「スマートシティ会津若松の挑戦」
- ③小池 美穂 株式会社マテリアル・コンセプト代表取締役CEO
「ベンチャーにおける産学官連携の必要性」

・第二部 トークセッション

講師3名にF-REI江村理事を加え、佐々木モデレータの司会のもと、これからの産学官連携・産業化及びF-REIに対する期待について御議論いただいた。

～これからの産学官連携と産業化ビジョン、F-REIへの期待～

- パネリスト：①若生 市長
②海老原 代表理事
③小池 代表取締役CEO
④江村 克己 F-REI理事

○モデレータ：佐々木 啓一 宮城大学 学長

実施日程

- 第1回：令和5年1月13日
- 第2回：令和5年10月12日



山崎理事長 開会挨拶



会場の様子

市町村座談会について

市町村座談会は、研究開発・産業化・人材育成の取組における広域連携体制の構築を図るため、市町村や住民、企業・団体等、多様な主体と対話する場として、福島浜通り地域等の15市町村で実施するもの。

座談会の概要

- 市町村長のほか、地域で活躍する人材や企業等との直接対話
- 多様なシーズやニーズを把握するための現地視察や意見交換

－座談会のプログラム（例）－

- ・市町村長ほか職員からの市町村の現況や課題等のヒアリング、意見交換
- ・農業従事者等も交えての昼食会
- ・自治体内の先進的な企業等を現地視察、意見交換（3～4か所程度）
- ・（F-REIの取組紹介を含めた）市町村内の関係者との座談会

次年度以降の座談会（案）

- F-REI設置の効果は浜通り地域等だけではなく、復興に取り組む地域全体に波及するものでなければならないことから、福島県全体を意識した開催方法を検討する。
- 浜通り地域等 2回程度
市町村別ではなくテーマ別での開催を想定
- 中通り・会津地方 4回程度
県北（福島市）、県中（郡山市）県南（白河市）、会津（会津若松市）での開催を想定

開催実績

令和5年6月20日	いわき市	令和5年11月 6日	飯舘村
7月 5日	南相馬市	11月17日	楢葉町
7月27日	葛尾村	12月 4日	大熊町
8月 9日	浪江町	12月19日	相馬市
8月29日	田村市	令和6年 1月18日	川俣町
9月29日	広野町	1月30日	双葉町
10月11日	富岡町		
10月17日	川内村		
10月23日	新地町		



市町村座談会において得られた主な地域の共通課題①

【共通課題】

ロボット

- 遠隔操作ロボット・ドローンの操作の困難さ
- 複雑な作業工程の自動化、AI技術の活用
- 施設の工事やメンテナンスのドローン活用
- 人手不足を補う省力化・デジタル化

農林水産業

- 農業の担い手の高齢化・後継者不足
- 機械・器具、肥料・資材価格の高騰
- 選別工程、出荷工程、水管理等の省力化・自動化
- 農業経営の赤字体質からの脱却
- 小規模農家向けのロボットやシステム
- 農業従事者の暑さ対策
- 遊休農地の解消・早期の営農再開
- 鳥獣被害対策

エネルギー

- エネルギー価格の高騰
- 水素エネルギーのコスト高
- 2050年までのカーボンニュートラルの実現
- 新エネルギーのビジネス環境やインフラ整備、関係法令の整備

【F-REI】で取り組む課題解決の方針

- ・ 過酷環境下で使用できるロボット・ドローンの研究開発
- ・ インフラ設備の点検・整備における最先端のロボット・ドローン技術の活用拡大・技術の高度化
- ・ 知能化・自律化技術の研究開発

人手不足の解消へ

- ・ スマート農業機械・技術の研究開発
(水稲栽培の完全自動化等)
- ・ 施設園芸技術の高度化・省力化
- ・ 果樹栽培作業の省力化・スマート化、販路拡大
- ・ 林業作業の省力化・自動機械技術の開発 等

儲かる農林業へ

- ・ ネガティブエミッション技術の研究開発
- ・ CO2キャプチャー技術の研究開発
- ・ 水素エネルギーの製造・貯蔵・運搬・利活用システムの開発

サステナブルな社会の実現へ

【共通課題】

まちづくり・地域づくり

- F-REI研究者・職員の地域への定住、地域住民との交流
- 交流人口の増加、帰還、移住等定住人口の増加
- 住宅、教育、医療、交通等の生活環境の充実
- 多言語対応をはじめとする外国人向けサービスの充実

産業化

- 実装化や新しい産業につながる研究
- ベンチャー企業の育成
- イノベーションの創出とスタートアップの育成
- 福島浜通りにおける起業成功モデルの確立

教育

- STEAM教育の推進
- 子供たちを科学技術に誘う教育
- 理系女子が育つ教育
- 小中高等学校における国際バカロレア教育プログラムの導入
- 浜通り地域における高等学校及び高等教育機関の充実

【F-REI】で取り組む課題解決の方針

- ・ F-REI本施設内に展示スペースをはじめとする住民との交流スペースの設置
- ・ F-REI研究者・職員の地域コミュニティへの積極的な参画
- ・ 周辺環境整備のための関係機関への積極的な働きかけ

「創造的復興」の先進的モデルへ

- ・ F-REI産学官ネットワークセミナー等の研究者と地元企業、産業界との交流イベントの積極的な開催
- ・ 産業化・社会実装を見据えた研究開発の実施
- ・ 企業間のマッチングの場の提供
- ・ 企業の専門人材の積極的な育成

機構発ベンチャー等、研究開発成果の産業化への挑戦

- ・ 親子科学体験教室等、小学生向けイベントの定期的開催
- ・ 研究者を講師とした中高生向け出前授業、高専生・大学生向けトップセミナーの展開
- ・ サマースクール等F-REIの研究が体験できる育成事業の展開
- ・ 周辺市町村の外国語教育充実への積極的な働きかけ

地元出身者をF-REI研究者に育成

新産業創出等研究開発協議会（協議会）について

協議会の概要

- 福島復興再生特別措置法第109条の規定に基づき、新産業創出等研究開発等施策の実施に関し必要な協議を行うため、組織されたもの。
- 協議会等の議論を通じ、研究開発における役割分担の明確化や重複の排除等により、福島全体で最適な研究開発体制を構築するなど、既存施設等の取組に横串を刺す司令塔としての機能を最大限に発揮する。

協議会の組織

協議会

- ・各WGでの議論・決定等を踏まえた、新産業創出等研究開発施策の実施に関する司令塔機能の発揮を図る
- ・7府省庁、福島県、浜通り地域等15市町村、大学、研究機関等の35の構成員が参画

広域連携ワーキンググループ（WG）

- ・研究開発・産業化・人材育成の取組におけるF-REIを核としたパートナーシップによる広域連携体制の構築を図る
- ・福島県、浜通り地域等15の市町村等が参画

研究開発等ワーキンググループ（WG）

- ・研究開発等における諸課題についての議論を実施
- ・大学、研究機関等が参画

スケジュール

- 令和5年5月10日 第1回協議会（於:大熊町）
- 令和5年9月27日 第1回広域連携WG（於:楡葉町）
- 令和5年12月8日 第1回研究開発等WG（オンライン）
- 令和6年1月12日 第2回協議会（於:富岡町）

直近の協議会の概要

令和6年1月12日 第2回協議会

- F-REIの活動状況、各ワーキンググループの開催内容についてF-REIから、令和6年度予算概算決定及び施設整備の状況について復興庁から報告した後、市町村座談会等を通じて得られた課題等について、構成員による活発な意見交換が行われた。



↑ 第2回協議会開催の様子

連携協力に関する基本合意書（MOU）等の締結について

研究開発等の機構のミッションを円滑に進めるとともに、機構設置の効果を広域的に波及させるため、これまでに福島県内の8つの機関と連携協力に関する基本合意書（MOU）や包括連携協力協定書を締結。

連携協力に関する基本合意書等の概要

○内容

研究開発・人材育成等における連携、双方の資源を有効的に活用した協働活動等、締結先に応じた協定を締結

○締結先一覧

締結日	締結先
令和5年4月1日	福島高専
令和5年4月5日	福島県立医科大学
令和5年4月15日	いわき市
令和5年5月17日	福島大学
令和5年5月29日	浪江町
令和5年5月30日	会津大学
令和5年9月1日	南相馬市
令和6年1月25日	株式会社東邦銀行

今後も福島や全国の大学、教育機関、研究機関、企業、市町村等との締結を予定



福島高専との連携協力



株式会社東邦銀行との連携協力

国際アドバイザー

概要

F-REIでは国際的な知見を有する外部有識者からF-REIの運営等に関し助言をいただくため、外国人有識者4名に国際アドバイザーとして就任いただいている。

アドバイザー

	スヴァンテ・リンドクヴィスト博士	スヴァンテ・リンドクヴィスト博士は、科学技術史学の国際的に著名な研究者で、スウェーデン王立アカデミー会長(2009-2012)や、スウェーデン王宮府長官(2010-2018)を務めました。またスウェーデンのストックホルムにノーベル博物館を創設し、初代館長を11年間にわたり務めました。日本とスウェーデンの学術交流にも大きく寄与しており、日本学士院客員も務めています。
	ライムント・ノイゲバウアー博士	ライムント・ノイゲバウアー博士は、ドイツに拠点を置き世界をリードする応用研究機関であるフラウンホーファー研究機構の理事長(2012-2023)を務めました。 ノイゲバウアー博士はドレスデン工科大学で機械工学を学び、フラウンホーファー工作機械・成形技術研究所長(1994-2012)やケムニッツ工科大学(TU Chemnitz)工作機械・生産過程研究所所長(2000-2012)を務めました。 ノイゲバウアー博士は、2022年からドイツ首相未来評議会委員を務めています。
	フィオナ・レイモン博士	フィオナ・レイモン博士は原子力分野において30年間にわたり戦略的・運用上の貢献をしてきました。化学・工学の専門家として英王立工学アカデミー、英王立化学協会、及び英国立原子力研究所のフェローを務めています。国際原子力会議において、定期的に基調講演を行っているほか、経済協力開発機構/原子力機関(OECD/NEA)運営委員会副議長も務めています。また、科学における参加の多様性拡大を長年支援し、原子力分野における女性や障害者などの参加の取組を先導しています。
	スブラ・スレッシュ博士	スブラ・スレッシュ博士は、材料科学・工学、機械工学、生物学及び健康科学技術の分野における国際的に著名な研究者であり、米国立科学財団(NSF)の長官(2010-2013)を務めました。スレッシュ博士のリーダーシップの下、NSFのプログラムやイニシアチブにより、米国は科学・工学の最先端にあって、次世代の科学者・工学者を育成し、経済成長とイノベーションを進展させました。また、スレッシュ博士はカーネギーメロン大学学長(2013-2017)及び南洋工科大学学長(2018-2022)を歴任しました。

活動状況

昨年11月に欧州在住の3名(リンドクヴィスト博士、ノイゲバウアー博士、レイモン博士)のアドバイザーと面会。

- ・F-REIを国際的な世界トップレベルの研究拠点にするためのマネジメントの在り方
- ・国外から優秀な研究者等を獲得するためにふさわしい待遇や研究環境、生活環境
- ・研究の方向性

などについて意見交換を行った。

スレッシュ博士は来年度に面会する方向で調整中

